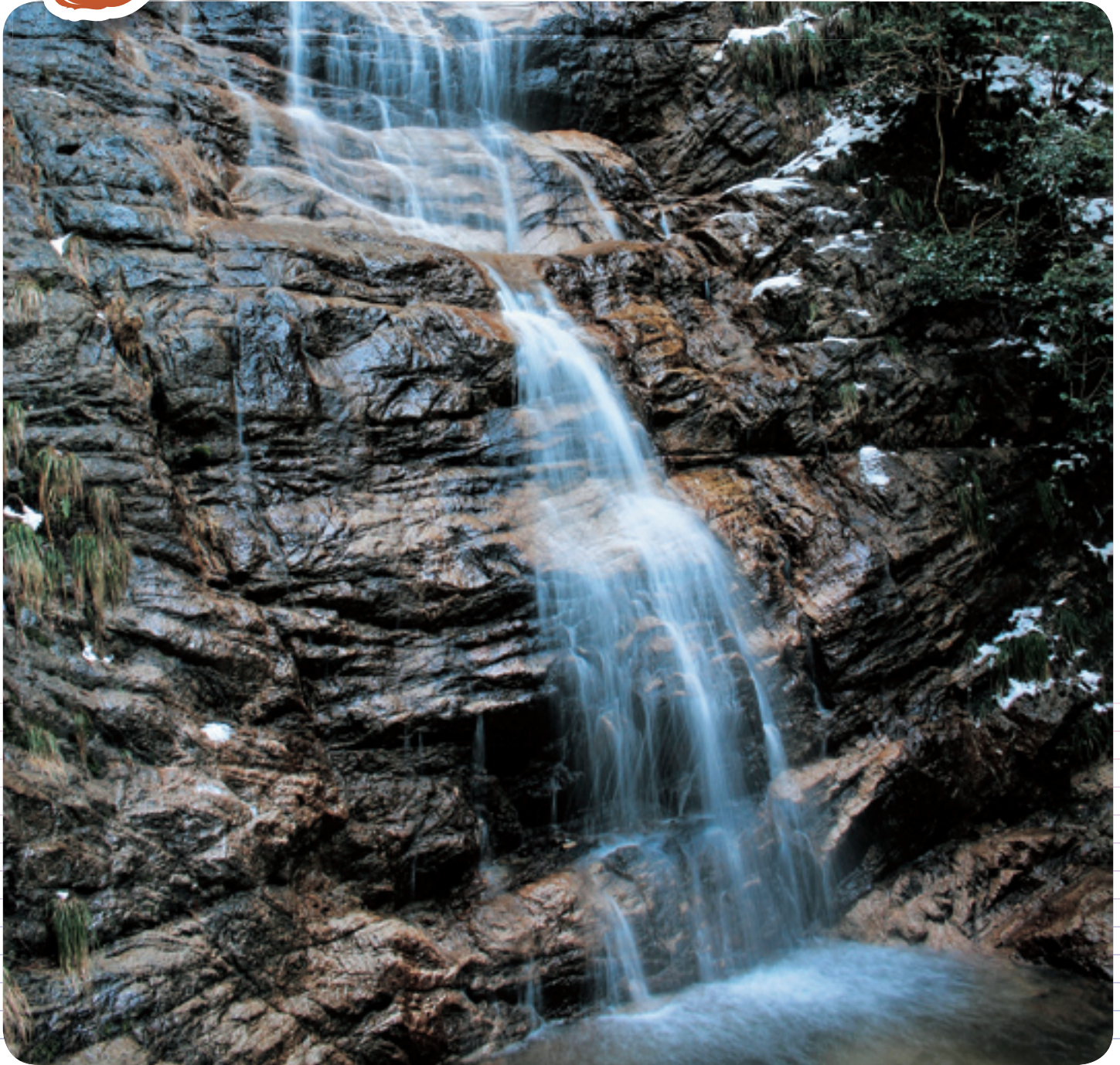


Get Heart

NO **33**
2006.1



特集

「第11回 日野川への想いを語る会」

表紙写真

第8回 日野川フォトコンテスト入賞作品 一般Aの部 銀賞 泉 文治さん
撮影場所: 日野町滝山公園

「清流」 滝は自然の特別な力を人に与える様な感動を覚え、信仰心が芽生えてくる様な気持ちでとりました。

意見交換会

テーマ「日野川流域の水利用について」

特別講演

「おいしい水を蛇口から」 田中 通雄さん

第8回「日野川フォトコンテスト作品審査結果」

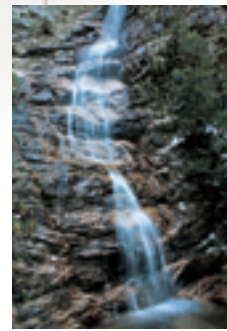
第8回 平成17年 日野川フォトコンテスト作品

● 審査結果表 ●

部門	審査結果	題名	氏名	住所
一般A	金賞	セツカミミハル 石叢溪の春	小谷 元伸	江府町
	銀賞	清流	泉 文治	米子市
	銀賞	雪の日	妹尾 賢次	米子市
	銀賞	春のなか	山田 洋司	境港市
	銅賞	新緑の源流	真砂 昇平	日吉津村
	銅賞	虹の架け橋	野坂 正昭	日野町
	銅賞	日野川黎明	檜 宏光	米子市
	銅賞	静寂の冬の川	森本 陽子	米子市
	銅賞	米子大橋往来	矢畑 哲也	米子市
	佳作	渇水	大森 博	米子市
	佳作	素敵なお休(ワンダフルホリデー)	山垣 宏子	日南町
	一般B	入選	鏡のような段々洩	青木 智子
入選		なんか釣れ~だあか?	池淵 和久	米子市
入選		仲良2人	釜谷 幸雄	米子市
入選		初めての川遊び	橋谷 俊二	江府町
入選		日野川雪景色	真砂 美鈴	日吉津村
佳作		川霧と特急	入江 直樹	大山町
佳作		自然の音	池淵 美和	米子市
佳作		里の空と川	古谷 美和	米子市
佳作		夕暮れの水辺	山柘 敏雄	米子市
小・中学生		入選	川と橋	安達 裕輔
	入選	二人でフォー!!	奥田 香織	米子市
	入選	日野川の水と王子製紙	中村 俊介	米子市
	入選	きまってるぜ!!	林田 加奈江	米子市
	入選	川を見つめている先生	藤井 利一	米子市
	入選	川	西村 翼	日南町



「石叢溪の春」 小谷 元伸(江府町)



「清流」
泉 文治(米子市)



「雪の日」
妹尾 賢次(米子市)



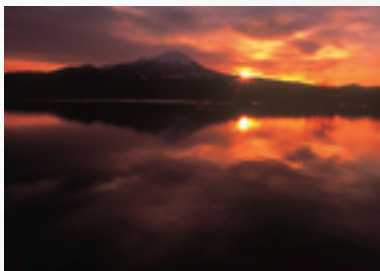
「春のなか」 山田 洋司(境港市)



「虹の架け橋」 野坂 正昭(日野町)



「新緑の源流」
真砂 昇平(日吉津村)



「日野川黎明」 檜 宏光(米子市)



「米子大橋往来」 矢畑 哲也(米子市)



「静寂の冬の川」
森本 陽子(米子市)

(第11回 日野川への想いを語る会の中で、第8回 日野川フォトコンテストの入賞者表彰式を行いました。)

編集後記

今回の「日野川を語る会」は日野川流域の水利用についてをテーマとして、各市町村の首長等の皆さんに熱く語って頂き、予定を30分以上過ぎてしまい、終わったときには、外はもう真っ暗。
日野川流域の水って、地域の皆さんいろいろ熱い思い入れがあるなあと、改めて感じました。
この熱い想いを、おいしい・きれいな日野川の水を、もっと多くの人たちに伝えたい、自慢したいなと思いました。
さて、熱い、熱いを連発しましたが、編集作業時の12月は記録的な寒さ。読者の皆さん、風邪などひかないようにお気をつけて下さい。

T.I

あなたのところを

GET HEART

GET HEART 第33号

発行
・日野川への想いを語る会

編集事務局
・国土交通省日野川河川事務所

〒689-3537
米子市古豊千678
TEL (0859) 27-5484

ホームページアドレス <http://www.cgr.mlit.go.jp/hinogawa>

「川」について、意見、質問、要望、何でもええけ、便りこしない。待ちちょうけんね。



「おいしい水を 蛇口から」

講師

米子市水道局長

田中 通雄 さん

私 自身、水道局ですから日野川とは切れない縁で仕事させて頂いております。

「日野川の源流と流域を守る会」を立ち上げる以前に、「日野川の源流を旅する会」というイベントに参加させて頂き、「日野川の源は山林だ」と強く思いました。

米子市水道局は、現在、旧淀江町、日吉津村、境港市も給水区域としています。名前は米子市でありながら2市1村に給水している事業は全国的にも希有です。

近い水は安くて、遠い水は高い、配管等のランニングコスト等の問題、原水が汚れていれば高度な浄水処理設備で料金にはね返ってきます。

さて、近年市内の児童が水筒やペットボトルを持って通学しています。信頼されているはずの水道が親御さんから見たらその程度かと、蛇口から飲める水道を取り戻そうと、最近よく見られる「今、水道が危い」という記事が週刊誌やコマーシャルに載ります。その下には必ず浄水器メーカーがもたっています。しかし水道水質チェックは多項目にわたって規制が強化され、それをクリアしているのです。

日野川の話でございますが、日南町の三国山を源流として延々77キロ、上水道や、簡易水道、自家水道、農業用水、工業用水、ひいては魚の泳ぐ水、それから海へ出て参りますが、日野川を大切にするのは、まず源流域における森林だと言うことを文頭に申しました。



鳥 取県の森林を守るため県民税上乘せ方式があります。コーヒー1杯程度の税金を負担しながら山に返していこうというものです。鳥取大学の教授がある機関誌で落ち葉が腐葉土になり、フルボ酸鉄が海に流れだすと海の魚にいい影響を、川だけでなく海にも与えると言っておられます。

昨年春にエコアジア会議が米子を中心に開かれました。

私共にも参加しないかと話があり、苦心の末、米子の水をペットボトルに詰めて出してみようじゃないか、ということで提供いたしました。

アジア諸国の皆さんに「エビアンよりもいいぞ」と褒めていただき、今年度は全国水道研究発表会を水道局が誘致しました。ペットボトルに詰めた水を売ろうということではなく、水道の原水は蛇口から飲める水なのだということです。ただ煮沸しただけですので蒸留水と違い2年間の賞味期限ですけどね。もう一つは日野川の恩恵を受けた米子の水のPRにつなげようと「～届けてみませんかふるさと“よなごの水”を～」をネーミングにしてみました。

日野川は大半が水質環境基準AAもしくはA、いわゆる最上級の水質を保持しています。AAというのははる過等の簡単浄水処理で上水道にしても構わない良質な水だということです。

平成16年11月から家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律が施行されました。河川や流域に推肥等野積みはダメですよということなんです。農家の人も大変でしょうが、是非きれいな日野川であってほしいと理解していただきたいものです。

日野川の源流と流域を守る会ができ、啓発され、母なる川、日野川は大切であると、もう一致した皆さんの意見や見解になってきました。三国山からスタートして、日吉津村までたどり着く77キロの関係自治体の皆さんが緩やかでもいい、日野川流域保護条例のような、要はきれいにしよう、汚すまい、守ろうといった条例化が出来たら皆さんの考え方が進んでくるのではないかなと思っています。

流域のすべての皆さんが日野川の水を減さない、いやかえってふやす、水質もよくする取り組みで、すばらしいふるさと、すばらしい鳥取県西部地区が出来るだろう、何よりも日野川は私どもの命です。役所がどうかではなしに、大切に皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っております。

特集 第11回 日野川への想いを語る会

平成17年11月24日(木) 於 伯耆町役場溝口分庁舎

今回で第11回目となる「日野川への想いを語る会」が伯耆町役場溝口分庁舎で開催されました。日野川流域の市町村長と河川を管理する鳥取県と国土交通省日野川河川事務所により「日野川流域の水利用について」をテーマとして色々な取り組みや想いを紹介し意見交換を行い、あわせて第8回日野川フォトコンテストの入賞者表彰式と米子市水道局長による特別講演が行われました。



～意見交換会 テーマ「日野川流域の水利用について」～

米子市



田中 水道局長

日野川流域として恵まれた環境の中、今年の夏も鳥取や松江等、節水の呼びかけをされていましたが、米子市は、取水井戸等を多く持っている関係で市民の皆さんに節水を呼びかけることなく推移しました。

米子市は日野川及び法勝寺川間の米川用水路でお世話になり、米・白ネギ・たばこ・ニンジンという弓浜部の名産品のもとになり、あわせて旧加茂川の浄化にも使わせてもらっています。

現在米子市は228ヘクタールの分収造林事業を、水道局が100ヘクタールの水源涵養林を設置しています。

メーター検針の際にも「日野川をきれいにしようと思ったら森を大切にしよう」のコメントを入れ積極的にPRに取り組んでいます。

日野川一斉清掃には我々の呼びかけに多方面から参加頂きその輪が一層広がるよう推めています。

下水の関係では日野川水系の公共下水道及び農業集落排水事業を両方やっており、既にわずかですが供用を開始しました。「水と空気のおいしいまち」のまちづくりを積極的に推進するためにやはり日野川は必要不可欠という認識のもと取り組んでいるところでございます。

日吉津村



石 村長

我が村は日野川の最下流に位置しているため、日野川の恵みを一番受けていると考えています。また、日本海の海岸線、そこに注ぐ日野川は村の貴重な自然です。

近年、海岸での不法投棄が目立ちます。村内には日野川の水を使っておられる企業や、小売業を営む企業、また日赤など村内団体の自主的なボランティア活動によって、役場も支援しながら年2回、海岸線とあわせ日野川の河川敷の清掃をしていただいております。企業、地元住民あわせて600人位の方の参加からも、村民の河川・海岸に対する想いの一端が理解していただけたと思います。

今年で3年目になりますが、夏休みに村内の小学校3年以上の児童により、農業用水を歩いて遡上したり、ボートで河口付近まで下ったり、水と自然に触れ合う行事が村内で実施されています。また、「水辺の楽校」が日野川河川事務所の協力で進んでおり、来年には全国スポレクで、ターゲットバードゴルフ競技がこの水辺の楽校を使って開催されます。子どもからお年寄りまで貴重な河川敷空間を利用できるお礼をあわせて申し上げます。

伯耆町



住田 町長

他地域に自慢できる水ということでは、全国いろいろな候補地の中から、コカ・コーラグループによるミネラルウォーターの製造工場が進出しました。「森のみずだより」のネーミングで売り出しています。

良質な水を利用した特産としては、酒があります。久米桜酒造の「八郷」、かつては安達酒造の「養老泉」が、また野上川の源流米を使っている「酒づくりの会」などの積極的な取り組みがあります。

旧溝口町では水道の未普及地域がありますが、豊富で良質な水を試掘してその水源で水道施設を一本で結んでいく計画を進めています。

それから二部地区では住民が河川ボランティアで掃除、草刈りなどを行っており、森林を守る活動では大山榎水高原横手上のブナを守る会、育成する会が立ち上がり、ブナの苗木約800本を移植したところです。

先ほどの酒の話では、八郷米をブランド化しようという盛り上がりがあります。米フェスタの会を毎年開催しており、消費者が田植、稲刈りなどに参加し大変喜んで頂いております。

別所川の渓流植物園でも、水と生物のかかわりなど、子ども達に水と親しんでもらえるよう取り組みをしているところです。

南部町

昨年10月に合併しまして朝鍋、賀祥2つのダムを持つことになりました。

今年、朝鍋ダムは早速効果を発揮し、干害から大豊作、賀祥ダムはアオコの発生で心配しました。

下水と農業集落排水を一本化し、上流部の下水、汚水処理に力を注ぐと水質はきっと良くなるのだと思いますが、今年のように雨が少ない年はアオコの発生など、遠因をたどるとやはり山の荒廃に行き着くのかと思います。

11月3日、西部の市町村から負担をいただいて「森のめぐみ感謝祭」という大きなイベントを開催しました。森の重要性を認識し、森に感謝する。今後も上流、下流一体となって引き続きやっていきたいと思っています。

日赤奉仕団の法勝寺川清掃、中学校の賀祥ダム水質検査、寺内川の水生生物の調査等、町では6月第1日曜日を川や道路周辺環境整備を一斉清掃の日として取り組んでいます。

ダムを活用して水に親しんでいくさまざまな仕掛けをしていて、湖畔に桜を植栽、ボート、オートキャンプ場、バンガロー、親水公園など水に遊ぶ仕掛けを工夫しています。

また、金田集落ではホタルを養殖して放流しホタルの名所になりつつあります。

南部町では昔、234年かけて佐野川用水を完成させた先人がいます。水を活用した歴史を学びきちんと受けついで後世に渡すのもまた、日野川を語る会の役割ではないかと思っています。



坂本 町長

日南町

日南町は日野川の源流域にあり、金名水とか銀名水といわれるすばらしい水があります。かつては山水、地下の井戸水を使っていましたが、近年水道がようやく普及してきました。

しかし、県下の平均水道普及率を大中に下廻って6割余り、今でも井戸を掘って使われている地域もあります。これは水そのものが良質であるからだと思っていますし、このため井戸を掘る方に補助する制度もつくっております。

水稻のコシヒカリ、作物としてトマト、特にモチ米は全農の産地指定米になっています。水と食糧はつながっているのだと思います。

今、日南の水を守る会があり、アユ釣り大会、日野川源流かっぱ祭りなど、イベントや活動、さらに日南環境林という680ヘクタールの山を町が求め、環境林を利用し下流域も含め体験活用して山への理解を深めて頂いています。

近年温暖化で濁水と洪水が交互にやってきます。森林保全、日野川の森構想の中で荒廃した山の木材加工により収益にかえていくことなど、森を整備する、また、生活排水も合併浄化槽など町が事業主体になり「きれいな水を下流域に」をテーマに取り組んでいます。

杉林に乱舞するヒメボタル、ブナの原生林ニホンサクラソウの保全など、源流域の日南町は水をきれいに下流に流そうという環境の取り組みをしているところです。



矢田 町長

日野町

私達の小・中学時代は常に川で遊んでいた記憶があり、プールもありませんので日野川で泳ぐ、釣る、潜るといって川にかかわっていた思い出があります。

平成5年、県の河川整備事業でせせらぎの水辺の河川公園を造って頂き、これにあわせ、カヌーの艇庫、カヌー20艇を整備しました。カヌーの大会などを自然のコースで行うことができ、特に中国地方でも有数のスラロームのコースは、県内外から利用頂いております。

又、ご存知のオシドリは、10月から3月中旬まで1,000羽を越える数が集まり、全国から16,000人の方がお見えになります。

これについてはボランティアの方が努力されていますが、エサが川の環境に影響を与えるなど、いろいろ難しい部分があるそうです。

さらに地下水を利用してサワガニの養殖を卵から育てて出荷しています。

また、県の森林環境保全税を使った、森に対する子どもの気持ちを養う意味で、シイタケの植菌、クヌギの植栽、針葉林の手入れ、枝打ちの体験など実施しています。特産品では鈴原糯スズハラヌカという銘柄が県やJAから推奨品種、銘柄指定を受けています。そして毛無山、宝仏山のブナの原生林を大切な資源として、大小の河川から日野川に注いでいる源として地域の方々とともに日野町は日野川を守るため取り組んでいます。



谷川産業振興課長

江府町

名前の由来が、日野川、俣野川、船谷川、小江尾川が合流して府をなすということで、川については深い関わりがある町です。

県境サミットが行っていた水源トラスト事業、森林活動のための取り組みを今、町独自で行っています。

又、サントリーが平成20年春をめぐりに誘致するなど、江府町は水とのかかわりが深いですが、水を商売にするのではなく、水をキーワードにした町づくりが出来ればと思っています。

日野川源流米コンテストでも9つの賞のうち4つが江府町で、米も特産品の一つとして売り出していきたいと考えています。

山林は1万ヘクタール、そのうち4割が広葉樹で、トラスト基金や森林環境保全税で維持していきたいと思っています。

ハード面では集落排水も一地区を残して完了し、今後は合併浄化槽の推進をと思います。

役場の下船谷川では住民ボランティアで河川清掃を自主的にやっておられ、ホタルが住みつく良い川になってきています。住民の手で河川を維持して生かす、そういった取り組みにこれからも町として応援していきたいと考えています。



伊藤 助役

鳥取県県土整備部河川課



田中 課長補佐

私自身こういった会に参加させていただくのは初めてでございます。
県内3大河川の中で日野川の想いを語る会や、千代川流域会議という形で行政、住民で川をはぐくんでいくような取り組みがなされています。
日野川源流みお筋再生事業ということで、総合事務所、住民の方が一緒になって川をつくっていかうという取り組み、治水については日野、西部総合事務所が発信源となってやっています。
また、日野の方が中心となりまして、全県的に広がった事業で河川の伐開を地域の方の方にやっていたと、それは地域がはぐくむ河川環境保全事業ということで、従来県がやっていたところを地域の方が主体となっていていただき、我々の方から交付金を出させて頂く、そういった活動が日野川流域を発信源として全県下に広がったことを紹介させていただきます。

鳥取県西部総合事務所 県土整備局

今年3月朝鍋ダムが完成し、今年の渇水の中、地元の水利関係者に非常に喜ばれ、お礼の言葉をいただきました。賀祥ダムにも地元の協議会等で水不足のため放流してほしいとの要請がございまして協議し調整いたしました。

次に大ノ沢緑化活動ということで西部県土整備局の方で日野県土と伯耆町の主催で1,030本の柳の植栽、昨年植えたミズナラ等の施肥を270名以上のボランティアの皆さんの参加で行いました。

米子市を流れる加茂川の上流に環境に配慮した川づくりということで多自然型護岸を進めております。就労施設ワークホーム、ヘルスケアタウンに近接し、また小学校の総合学習の場であり、地域と一緒に計画するため協議会を設けて川づくりを進めています。

南部町の皆さんにも協力頂き、親水公園の管理やトイレ、あづまやを作っていただきました。下流の朝金地区では日野川漁協と一緒に、魚の住みやすい川づくりを地域で協議しながら進めているところです。



水野 河川砂防課主幹

鳥取県日野総合事務所 県土整備局



福原 河川砂防課長

今、治水ということだけでなく、川の流れを再生していこうという取り組み(みお筋再生事業)を地元の皆さんに参加していただきやっいていこうとしています。

みお筋再生事業は16年度に日南町の九塚川で2カ所行いました。着工前は落差がある状態で、渓流魚のイワナ等を放流しても全く上にも上がることが出来ず、瀬や淵もないところがありました。そういったところに現場にある石を使い、地元の企業にプロポーザル方式で工法を決定し事業を行いました。

また、九塚川沿いの河川公園の護岸に川へ降りるための階段を設置しましたが、この階段部分の材料として間伐材を地元よりご提供いただき、地元の皆さんの協力により進めたところです。

日野川こどもモニター研修会を今回初めて日野で取り組みました。川で遊ぶことが出来る場所を探している中、日野川カヌーの里があるのを見つけ、そこで応募のあった42名の小学生と家族の方を含め50名が参加し、カヌーの体験、日野川の水質調査などしながら川に親しんでいただきました。

また、渓流を守る会、漁協の協力で日南町稲積山にケヤキ、山桜1,200本の植林を、130名のボランティアで行いました。来年以降、下草刈り等の作業も地元の方にご協力いただきながら、引き続き進めていきたいと考えているところです。

国土交通省日野川河川事務所



茅原 所長

私どもは日野川の本川と法勝寺川を合わせて17キロ余りを管理をしております。
日野川の水質は平成16年度の値で0.9ppm、法勝寺川が1.1ppmということで国土交通省が管理している全国109水系166の一級河川ランキングでいえば69とか97番目になります。
ランキング1位は大体0.5ppmだということです。
本年は記録的な少雨で地域の皆様に渇水調整等で協力いただきました。
日野川上流の菅沢ダムが最大4トン放流し下流に賄い、下流の弓ヶ浜半島の米川用水にも供給できました。

また、流域の子ども達に川について知ってもらおうということで昭和59年から20年にわたり水生生物調査(水生生物で川の水質を判断する)を続けています。

きれいな水、汚い水を4段階に分けて5地点について調査し、今年は190人の児童に参加いただいております。

河川の一斉清掃では7月の河川愛護月間に合わせて今年は18団体2,900名の参加を得ました。川で触れ合いながら学ぶ取り組みを今後とも私どもは進めて参りたいと思っております。